**千葉の民話より**

**田んぼの茶屋**

１幕８コマ

**作　　藤原　玄洋**

様

でてくるもの

源太（行商）

キツネ

娘（キツネ）

じろ作（百姓）

お清ばあさん

町女（立ち絵人形）

町男（立ち絵人形）

町人（女声）　１・２・３

　　（男声）　４・５・６

司会

スタッフ

　作　　　　藤原　玄洋

演　出　　　藤原　玄洋

美　術　　　高山　泰子

人形美術 高山　泰子

音　楽 坂本　妙子

音響効果

制　作

（C）2003,2007　FUJIEWARA GenYo

**オープニング**

―――司会、下手より登場。パネル前で。

司　会　　大変長らくお待たせいたしました。ただいまより、コミュニケーション工房によります人形劇「田んぼの茶屋」を上演いたします。最後まで、ごゆっくりご覧ください。

１　オープニング

Ｍ

―――司会、下手に退場。

音楽。

**第１コマ　　　ニンジン畑**

―――パネルが開くと、、にはのパネル。

　　　季節は、晩秋。

舞台前は畑。ケコミ寄りにだめ。ケコミ下手には、草むら。

ケコミ中央には、ニンジン畑。

じろ作の声　　ほいさ、ほいさ。

―――をかついだじろ作、下手より登場。肥桶には、ひしゃくが入っている。

じろ作　　ほいさ、ほいさ。（ゆれる肥桶に合わせて）ほいさ、ほいさ。ほいさ、ほいさ。

―――上手のだめの前で、をおろす。

じろ作　　どっこらしょ。今日も、ええ天気だなぁ。仕事じゃ。

さーて、やしをだめに入れなくちゃ。（ひしゃくですくいながら）おっとっとっと、まだ、できたてのうんちとおしっこだから、足にひっかけないように気をつけて……。（肥だめに入れる）これで何ヵ月もしたら、いい肥やしになるんじゃ。畑にまくと、野菜のいい栄養になって、それは立派なニンジンやダイコンができるんじゃ。ありがたいことじゃ。

―――肥だめに、肥やしを全部入れ終わる。

じろ作　　さーて、これでよし。（肥桶をかたづける。）

―――ニンジン畑に近づき。

じろ作　　おーおー、ニンジンがよく育っている。肥やしのおかげじゃ。

―――クワで、畑を耕しはじめる。下手から、キツネが様子を見ている。

そっと、畑に近づき、ニンジンを　くわえて、すばやく逃げる。

じろ作　　（観客の反応に気づき）どうした！？　（観客の声を聞いて）なにっ、キツネがニンジンを持っていったぁ？　ありゃーぁ、キツネのヤツ。（観客に）どっちに逃げてった？　あっちか。ちくしょうめ、（下手に）いないぞ。今度出てきたら、ゆるさんぞ。

―――再び、ニンジン畑を耕す。キツネが、そっと現れる。

観客の反応を見て、ニンジンを取れずに、逃げ去る。

じろ作　　（観客の声に）どうした！　（観客の「キツネが来た」の声を聞いて）どっちじゃ……。いないじゃないか。しっかり見張ってくれないと困るじゃないか。（畑を耕す）

―――キツネ、再び現れる。観客の声。

じろ作　　あっ、キツネだ。こらーっ。

―――キツネ、ニンジンをくわえる。じろ作を突き飛ばし、上手ソデに逃げる。

じろ作、起きあがり、追いかけて上手ソデに退場。

じろ作(声)　　こらー、待ちやがれぇ。

―――しばらくして、じろ作、上手ソデから戻る。

じろ作　　まったく、とんでもない野郎だ。ニンジンができたころに、やってきて、せっかくのニンジンを持っていきやがる。今度来たら、承知しないぞ。

―――じろ作、再び畑を耕しはじめる。

の源太、カゴをって下手から登場。カゴにはダイコンなど野菜が見える。

源　太　　じろ作、いいだねぇ。

じろ作　　おや、源太。これから出かけるのかい？

源　太　　これから、ぎさ。悪いんだけど、いつものようにニンジンをわけてくれないか。

じろ作　　こっちの方のをやってくんな。

源　太　　よしきた。

―――２人でニンジンを抜く。抜いたニンジンの泥をはらい、ケコミ中央に並べる。

じろ作　　こんなもんで、いいかな。

源　太　　充分、じゅうぶん。

じろ作　　カゴに入れてやろう。（カゴに入れてやる）よし、いいぞ。

源　太　　ありがとよ。（立ち上がり、上手に）

じろ作　　気をつけてな。おー、そうそう、さっき、キツネの野郎がニンジンを盗みに来てやがった。おまえも、キツネに化かされないようにな。

源　太　　バカいうな。

じろ作　　おいおい、このごろなぁ、村はずれの田んぼの川っぷちに、キツネが出るらしい。それで人を化かしているそうだ。

源　太　　ハハハハ、オレがキツネのヤツなんかに化かされるもんか。じゃぁ、いってくらぁ。

―――源太、上手に退場。

じろ作　　さてと。もうひと仕事、がんばるか。（再び、畑を耕し始める）

―――パネル、閉まる。(パネル下手裏に立木、スタンバイ)

**第２コマ　　　田んぼへの道**　(パネル前)

―――パネル前に、源太、下手より登場。

源　太　　じろ作のニンジンをわけてもらったから、たくさん売らなくちゃ。

―――源太、上手に退場。

川の流れる音。

**第３コマ　　　村はずれの田んぼ**

―――パネル開くと、ケコミは黄色に実った田んぼ。奥には川が見える。下手パネルに立木。

　　　　　に２～３度、魚が飛びはねる。水しぶき上がる。

キツネが出てきて、魚を捕まえて退場。

　　　　　源太、下手より登場。

源　太　　ちょっと、ひと休みするか。

―――竹筒をとりだして、ケコミに腰かけ、水を飲む。

　　　キツネ再び、姿を見せて、魚を探している。

源　太　　ふー、冷たくて、うまいなぁ。（振り返って、キツネを見つける）ややっ、キツネのヤツだ。（石をさがして）この野郎。（キツネに向かって投げつけ、走り寄る）

―――キツネ、驚いて逃げる。

源　太　　オレ様は、お前なんかに化かされないからなぁ。ちぇっ、逃げちまいやがった。さーて、遅くならないうちに出かけるか。商売、しょうばい。

―――源太、上手に退場。

パネル閉まる。

**第４コマ　　　町への道**　(パネル前)

―――下手パネルに立木。

お清、上手より登場。すぐに源太、下手より登場。

お　清　　おや、源太さん。こんなに早く、どこへいきなさる。

源　太　　ああ、ばあさん、おはよう。町まで野菜を売りにいくのさ。

お　清　　のでることで。しっかり、おぎよ。

源　太　　ありがとよ。

―――お清、下手に退場。

源　太　　いつも元気なバアちゃんだこと。おれも、がんばんなくちゃ。商売、しょうばい。

―――源太、上手に退場。

タンバリンのリズム。

**第５コマ　　　町の往来**

―――パネル開くと、町の。

立ち絵の町の人、上・下手パネルより登場。舞台を横切って退場。

源太、下手パネル奥より登場。

源　太　　さあて、ここらあたりで、店を広げるか。商売、しょうばい。

―――ケコミ中央に、カゴを下ろして、店を広げる。

源　太　　まずは、ダイコンとニンジン。（あとはアドリブで野菜をならべる）さーて、これでよしっと。（観客に向かって）さぁ、いらっしゃい、いらっしゃい。おいしい野菜はいかが。ニンジン、ダイコンにハクサイ、なんでもあるよ。さぁ、いらっしゃい、いらっしゃーい。

―――立ち絵の町女、下手パネルよりケコミ前に登場。

源　太　　いらっしゃい、いらっしゃーい。安いよ、やすいよー。

町　女　　ナスと、ハクサイをおくれ。

源　太　　はいはい。ナスと、ハクサイね。（渡す）とれたてのニンジンもあるよ。どうだい？

町　女　　じゃ、ニンジンもおくれ。

源　太　　毎度っ。

町　女　　全部でいくら？

源　太　　はい、８文です。

町　女　　じゃ、これで。（お金を渡して、野菜を受け取る）

―――立ち絵の町女、野菜を持って、上手パネルに退場。

源　太　　ありがとうございます。また、どうぞ。

―――立ち絵の町男、上手パネルよりケコミ前に登場。

源　太　　いらっしゃい、いらっしゃーい。安いよ、やすいよー。

町　男　　兄さん、ダイコンをおくれ。

―――立ち絵の人々、上・下手パネルよりケコミ前に登場。後ろで待っている。

源　太　　はいはい。ダイコンね。とれたてのニンジンもあるよ。どうだい？

町　男　　じゃ、ニンジンもおくれよ。

源　太　　毎度っ。５文です。

町　男　　はい、これで。（お金を渡して、野菜を受け取る）

源　太　　毎度。

―――立ち絵の町男、裏返すと野菜を持った人形に。下手パネルに退場。

町人１　　オレにも、ニンジンとナスをおくれ。

源　太　　ニンジンとナスね。

町人２　　私にもください。

源　太　　よしきた。

町人３　　オレにも、ニンジンとネギをおくれ。

源　太　　ニンジンとネギね。

町人４　　兄さん、ダイコンとハクサイくださいな。

源　太　　あいよ。ダイコンとハクサイ。

町人５　　早いとこ、ナスと、ニンジンと、ハクサイ。

源　太　　はいはい、おまちを。はい、どうぞ。あとは、ダイコン１本だ。

町人６　　じゃ、私におくれ。

源　太　　ありがとうございます。また、どうぞ。

―――立ち絵の町の人々人形を裏返すと、野菜を持った絵に変わる。上・下手にわかれてパネルに退場。

源　太　　あー、今日は大だ。すっかり全部、売れちまった。お宝もどっさりだ。（をふる。の音）さあて、店じまいして戻るとするかぁ。

―――源太、店じまいをして、空のカゴを背負う。

タンバリンのリズム。源太、下手パネル奥に退場。

パネル、閉まると帰り道。立木は下手。

**第６コマ　　　田んぼへの道**　(パネル前)

―――源太、上手よりを持って登場。

源　太　　あー、今日は、ほんとによかった。たんまり、稼げたぞ。（胸をたたく。銭の音）ブルブル、ちょっと冷えてきたな。早く帰って、お酒でもいっぱいやるか。あー、すっかり、暗くなっちまったなぁ。急いで帰ろう。

―――源太、下手に退場。

音楽。

**第７コマ　　　田んぼの茶屋**

―――パネル開くと、上手奥パネルに、茶屋の前のケコミには、の腰掛け。

ケコミ下手に、。舞台奥に三日月。(下手パネル裏の立木はずす)

源太、茶屋の裏から登場。

源　太　　（茶屋を見て）おや、こんなところに、茶屋なんてあったかなぁ。(茶屋の前で立ち止まり、首をかしげる)

―――娘に化けたキツネ、茶屋から登場。

娘　　いらっしゃいませ。どうぞ、お寄りください。

源　太　　()こりゃ、きれいな姉さんだ。(娘に)こんなところに茶屋なんてあったっけ。

娘　　はいはい、本日開店したばかりです。しっかり、サービスいたしますよ。

源　太　　そうかい。(茶屋に入り、毛氈に腰掛ける)じゃ、お茶をいっぱい。

娘　　おやおや、お茶ですか。もっと、体の暖まるものがありますよ。

源　太　　暖まるものって、酒のことかい？

娘　　いい、お酒がありますよ。今日は、開店大サービスですから、５文で飲み放題ですよ。

源　太　５文で飲み放題かい？　それはすごい。じゃ、酒をたのむよ。

娘　　はいはい、少々お待ちを

―――娘、茶屋に入る。

源　太　　おかしいなぁ。こんな茶屋なんて、朝通ったときには、なかったのになぁ。

―――娘、茶屋からお酒をのせたを持って出て、ケコミ中央に置く。

娘　　どうしたんですか、だんな。さあ、おひとつどうぞ。

源　太　いやぁ、きれいな姉さんのお酌かい？

娘　　いやですよ。そんなこといって。（酒をつぐ）さあ、さあ、ぐっとあけてくださいな。

源　太　じゃ、遠慮なくいかせてもらうよ。（酒を一気に飲み干す）

娘　　まあまあ、いい飲みっぷりだこと。兄さん、そんな小さいものじゃなく、これでぐっとやってくださいな。（大きな湯飲みを出す）

源　太　ハハハハ、そうかい。５文で飲み放題だからなぁ。すまないねぇ。

娘　　サービスは、本日限り。（酒をつぐ）どんどんいってください。

源　太　すまないねえ。（一息に飲む）ぷっ、はー。こりゃうまい。いい酒だぁ。

娘　　はいはい、ドンドンいってくださいな。（酒をつぐ）

源　太　ウグウグ。うまい、こりゃ、きくねぇ。いい酒だぁ。ちょっと、酔っぱらってきちゃったかな。

娘　　はいはい、サービス、サービスですから、どんどんいってくださいよぉ。

源　太　ウイーッ、ヒック。おらぁ、よっぱらちゃったぁー。なんだか、眠くなちゃったなぁ。（寝ころがる）

娘　　やですよー。こんなところで眠ちゃったらぁ。（源太を起こす）

源　太　ウイーッ、ヒック。

娘　　そうだ、お客さん。おがありますから、ひとっあびて、さっぱりしてくださいな。（源太を起こす）

源　太　えっ？　風呂？　そいつは、ありがたい。いいのかい？

娘　　はいはい、こちらですよ。足元に気をつけて……。

―――金屏風の裏に案内する。すぐに娘、出てきて。

娘　　じゃ、ごゆっくり。

源太(声)　すまないなぁ。それじゃ、遠慮なく風呂に入らせてもらうよ。

―――娘、ケコミ中央で、効果音とともにキツネに戻り、様子をうかがう。

源太(声)　あー、極楽、ごくらく。いい湯だぁ。なんだか、よっぱらって眠くなってきちゃったなぁ。グー、グー、グー……。

―――キツネ、効果音とともに茶屋、とっくりの盆を消す。

金屏風の中に入り、巾着をくわえて出てくる。（銭の音）

キツネ、上手に走り去る。

音楽。

舞台奥の月、下手ケコミの中に沈む。

パネル、閉まる。

**第８コマ　　　田んぼの朝**

―――ニワトリの声。

川の音。パネル開く。

ケコミ下手に、肥だめがある。

源太は、肥だめの中で、眠りこけている。

じろ作(声)　　おーい、おーい、源太ー。

お清の声　　源太さーん。

―――２人、上手パネル裏より登場。

お　清　　(上手で)きのうは、源さん帰ってこなかったのかぁ。

じろ作　　ああ、そうなんだ。酔っぱらって川にでも、はまっちまったのかと心配したが、川にはおらんかったなぁ

お　清　　ずいぶん探したが、おらんかった。

―――じろ作、下手の源太に気づき。

じろ作　　あっ、源太。源太―、どうした。肥だめにはまっちまったのかぁ？

お　清　　（大声で）源さん、源さん。

じろ作　　源太。源太。おい、起きろっ。

源　太　　うん？　あっ、あーあ、すっかり眠っちまったぁ。あっ、あーあ。ゲッ、こりゃなんじゃ？　肥だめじゃないか。

お　清　　源太、肥だめに落っこちたのか？

二　人　　ハッハッハッ。

―――源太、肥だめから出ようとする。

じろ作　　こら、くさい、くさい。こっちに来るな。

お　清　　くさい、くさい。鼻が曲っちまう。

―――キツネ、川の上手から登場。魚を探す風。

じろ作　　源太、川の水で、しっかり洗ってこい。

お　清　　あっ、キツネじゃ。

―――キツネ、魚をくわえて退場。

じろ作　　ほらみろ、キツネに化かされたんじゃ。

源　太　えーっ。じゃ、酒を飲ませてくれた、あのきれいな姉さんは、キツネだったのかぁ。

お　清　　酒もほどほどにしなきゃな。

じろ作　　ほらみろ、化かされたじゃないか。

―――源太、着物をさぐる。巾着がない。

源　太　あーっ、ない、ないっ、巾着がない。おらの大事なかせぎがなくなっちまった。ちくしょうめ。キツネの野郎め。（泣く）

お　清　　お前、キツネになんぞ悪さでもしたのか？

―――キツネ、出てきて、巾着を投げ返し、すぐに退場。銭の音。

源太、ケコミの巾着に飛びつく。

源　太　ありがてえ、ありがてえ。（巾着を振る。銭の音）

二　人　　ハッハッハッ。（源太、お清に近づく）

お　清　　くさい、くっさい。こっちへ来るな。

じろ作　　源太、いいから川の水で、しっかり洗ってこい。

二　人　　ハッハッハッ。

―――音楽。

源　太　（ケコミ中央で）ありがてえ、ありがてえ。

―――パネル閉まる。

二　人　　ハッハッハッ、ハッハッハッ。

―――司会、下手よりパネル前に登場。

司　会　　キツネに石を投げた源太さんは、しっかり仕返しされてしまいましたね。これで、千葉の民話「田んぼの茶屋」のお話は、おしまいです。本日は、最後までありがとうございました。（退場）

　　　　 この作品は、最初２００２年に「人形劇団ぐるーぷ・あ」のために書き、上演されました。劇中ニンジンが出てくるのは、劇団が千葉県船橋市にあったので、地元で上演するため、特産品をとの希望からです。

　　　　　場面転換が多数あるのは、私のホームページに紹介したパネルを使った人形舞台を前提に、場面転換が途切れることなくできるという演出上の理由からです。一般的なケコミので上演する場合には工夫が必要かもしれません。

　　　　　その後、２００６～１２年、人形や、セットも譲り受け、都立桐ヶ丘高校のコミュニケーション工房の授業の教材として使いました。ルビがふってあったり、音楽のキッカケや演出上の指示などが書き込まれているのはそのためです。

藤原玄洋　２０１７・４・８